

# がん患者さんのための 「地域の療養情報」サポートブック

がん患者さんのための  
地域の療養情報  
サポートブック



広島県  
広島県がん対策推進協議会

## 作成の取り組み

～行政の立場から～

平成23年11月11日

広島県がん対策課

## きっかけ

がん患者団体等ヒアリング(H19(2007))

「様々な情報を一元的にとりまとめて提供して欲しい」



広島県のがん情報サポートサイト  
「広島がんネット」開設(H21(2009))

ホームページ以外の情報提供方策により、高齢者を含めたすべてのがん患者が、正しい情報を等しく入手できる環境整備が必要

## 作成に向けた検討

○広島県がん対策推進協議会がん患者支援部会で協議(委員10名, うち患者団体委員2名)

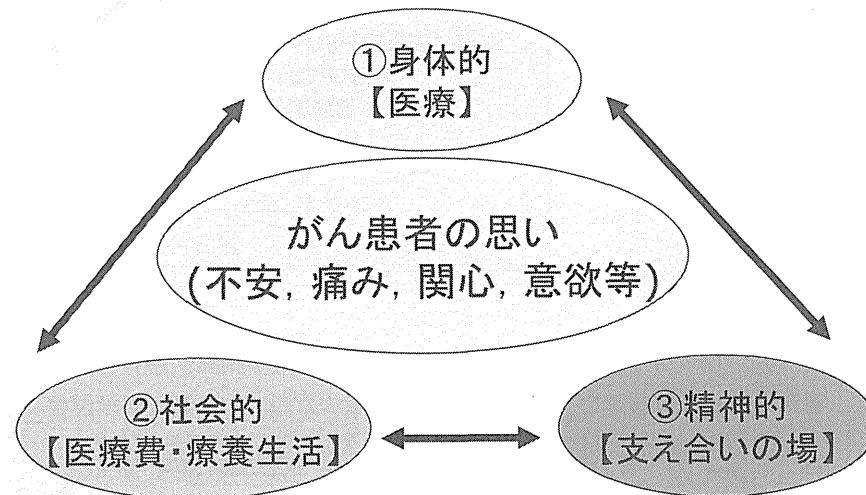
○がん診療連携拠点病院の相談支援センター、がん患者(支援)団体からも意見を聴取

《現場の視点》

◎基本コンセプトのまとめ

◎掲載内容の決定

## 基本コンセプト



全般

相談支援センターの役割について、より詳しく

医療

- ・県指定病院 ・がん医療ネットワーク・緩和ケアダイヤル
- ・セカンドオピニオン等の解説に「囲み」を用いる

医療費・療養生活

- ・24H対応可能な訪問看護ST、薬局
- ・被爆者、毒ガス障害者に関する制度
- ・在宅福祉サービス

支え合いの場

- ・患者団体、フレンドコール ・サロン
- ・闘病記コーナーのある図書館

掲載内容

がん患者さんのための

「地域の療養情報」サポートブック

- がんの療養生活に役立つ身近な相談窓口など、広島県内の情報を掲載
- 県内のがん診療連携拠点病院等で配布

目次

がんに関する相談窓口 1

相談支援センターへの相談のお願い 1  
広島がんネットにもご活用ください 3

医療に関すること 4

がん診療連携拠点病院とは 4  
広島県のがん医療ネットワーク 5  
セカンドオピニオンを望みたい 5  
緩和ケアについて 9

医療費・療養生活 10

在宅療養サービスを受けたい 10  
介護サービスを受けたい 11

支え合いの場 12

患者団体の紹介 12  
広島県のがん患者団体 13  
広島県のがん患者団体 14  
広島県のがん患者団体 15

支え合いの場 20

がん患者は誰と？ 20  
フレンドコール 21

闘病記コーナーのある図書館 23

闘病記コーナーのある図書館 23

闘病記コーナーのある図書館 24

闘病記コーナーのある図書館 47

●主な内容

- ①がんに関する相談窓口の紹介
- ②県内のがん医療施設
- ③在宅療養サービス
- ④医療費助成等の各種制度
- ⑤患者団体や患者サロンの紹介
- ⑥がん闘病記コーナーのある図書館の紹介
- ⑦各種制度の相談窓口

がんに関する相談窓口

相談支援センターにご相談ください

県内の各がん診療連携拠点病院(P4参照)の「相談支援センター」では、患者さんやご家族からのがんの治療や療養生活全般の質問や相談に対応し、がんに関する様々な情報提供を行っています。相談は無料、病状で診療を受けていない方でもご利用いただけます。

●相談支援センター (P23, 3参照)

区分	相談支援センター名	所在地	問い合わせ先	対応曜日・時間
県指定	広島大学病院 がん医療相談室	広島市 南区	直:082-257-1525 (平日、以下同)	9:00~17:00
	県立広島病院 総合相談・がん相談室	広島市 南区	直:082-256-3561	9:00~17:00
	広島市立広島市民病院 がん診療相談室	広島市 中区	直:082-221-1351	8:30~17:00
	広島赤十字・原爆病院 相談支援センター	広島市 中区	直:082-241-3111 代:082-241-3111 (9:30-20:00)	9:00~16:00
	広島市立安佐市民病院 がん相談支援室	広島市 安佐北区	代:082-815-5211 (内2289)	8:30~15:15
	広島総合病院 がん相談支援センター	廿日市市	直:0829-36-3270	8:30~17:00
	森医科センター がん相談支援センター	呉市	直:0823-24-6358	9:00~17:00
	東広島医療センター 医療相談支援センター	東広島市	直:082-493-6487	9:00~15:00
	尾道総合病院 医療相談支援センター	尾道市	直:0824-22-8111 (内3115)	8:30~17:00
	福山市立病院 がん相談支援センター	福山市	代:084-941-5151 (内437)	9:00~16:00
県指定	市立三次中央病院 がん相談支援センター	三次市	直:0824-65-0239 (内2186)	9:00~17:00
	呉共済病院 がん相談支援室	呉市	代:0823-22-2111	10:00~16:00
	尾道市立市民病院 相談支援センター	尾道市	代:0848-47-1155 (内437)	8:30~17:15
	福山医療センター がん相談支援センター	福山市	代:084-922-0001	9:00~17:00
中国中央病院 地域連携室・がん相談窓口	福山市	代:084-970-2121	9:00~16:30	

病院によっては、受付時間が異なる、予約が必要な場合もありますので、事前にご確認ください。

がんに関する相談窓口

こんなときに  
相談支援センターを活用してください

- ✓がんについて詳しく知りたいとき
- ✓がんの治療方法について確認したいとき
- ✓療養生活のことについて聞いてみたいとき
- ✓誰かに心の悩みを聞いてほしいとき
- ✓生活や経済的なことで心配があるとき
- ✓家族のことも相談してみたいとき

相談支援センターでは、がんに関する様々な相談に対応しています。

●患者団体による相談窓口

がん患者さんやご家族が抱える不安や悩みなどの相談に対して、がん経験者等が情報提供や各種相談に対応しています。

がんの治療を受ける中で、不安になったり、心配になったり、一人ではどうしたらいいかわからなくなったり、様々な悩みが湧いてくる場合があります。そんな時に、フレンドコールをご利用ください。がんの体験者や家族たちが、同じ立場でお話をお聞きします。ひとりで抱えず一緒に話してみませんか？

●がん患者フレンドコール

開設日時	毎週水・木曜日 11:00~16:00
電話番号	082-247-0080
実施主体	NPO法人広島がんサポート



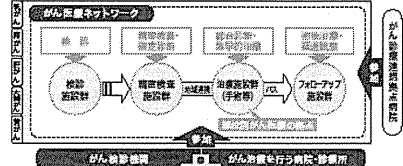
医療に関すること

広島県のがん医療ネットワーク

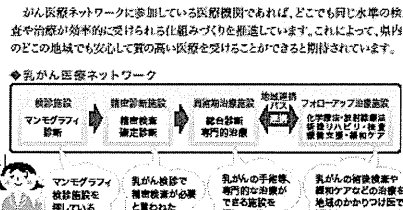
広島県では、がん検診、精密診断、治療、緩和ケアの各段階において一定の基準を満たす専門機関が相互に連携しながら切れ目のない医療を提供する「広島県のがん医療ネットワーク」の整備を進めています。現在、「乳がん医療ネットワーク」及び「肺がん医療ネットワーク」を構築しています。今後は、他の5がん(肝・大腸・胃)にもこの連携体制を広げるとともに、その他のがんの医療体制についても検討していきます。

広島県独自のがん医療ネットワーク

一定の基準に基づく医療施設等が連携したのがん医療ネットワーク化機関

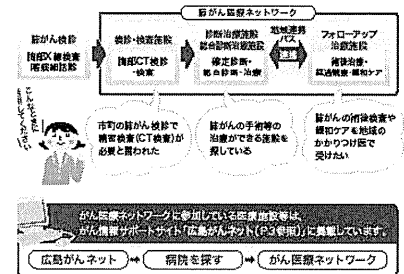


●乳がん医療ネットワーク



医療に関すること

●肺がん医療ネットワーク



●がん患者フレンドコール

がん医療では、手術を行った医療機関が、がん患者さん一人ひとりに対して、術後の「診療計画(地域連携パス)」を作成し、地域のかかりつけ医(フォローアップ施設)と今後の治療に必要な検査や診療情報を共有、連携して切れ目のない治療を行う仕組みが変わってきています。

●わたしの手帳

乳がん患者さんと医療者が、診断から術後にいたるまでの経過等を記録し、情報を共有することで、安心して治療を受けるために役立てていただくためのものです。この手帳は、県内の乳がん医療ネットワーク参加施設において術後の患者さんに無料でお渡ししています。

セカンドオピニオンを受けたい

セカンドオピニオンとは、患者さんご自身の病状への理解を深め、適切な治療を選択するため、主治医以外の医師に意見を聞き、情報収集することです。

セカンドオピニオン窓口では、①診断の確認、②治療方針の確認、③その他の治療方法の確認とその長短を聞いたための医師を紹介してもらうことができます。

主治医から

ご説明した診療方針を十分理解し納得していただくためにセカンドオピニオンという方法があります。申し出があれば、主治医は紹介状などを用意しますので、速断せずにお申し出ください。



セカンドオピニオンを希望する医師から

適切な意見を述べるためには、これまでの経過を知ることが大切です。主治医からの紹介状と検査結果をお持ちください。

相談者から

セカンドオピニオンは納得して医療を受けるためにも患者として当然の権利です。しかし、その前に少し考えてみましょう。主治医からの説明は十分理解できていますか？



セカンドオピニオンに限らず、がんが診断された直後など、新しい病状や治療の内容などについて、落ち着いて聞くのは難しいことも多いです。家族や親しい人と一緒に話を聞くことをお勧めします。

Table with 4 columns: 区分, セカンドオピニオン窓口, 問い合わせ先, 対応時間. Lists various hospital departments and their contact info.

※平成23年度は、セカンドオピニオンが実施される施設が限られています。事前に確認してください。

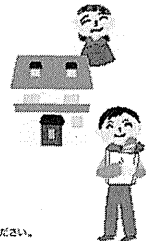
がん診療連携拠点病院以外の医療機関でもセカンドオピニオンを実施しています。詳しくは広島がんネット(P23)を参照してください。

住民参加型の在宅福祉サービスを受けたい

市内の複数の市町の社会福祉協議会では、「オール広島ささえあいネット」の名称で、暮らしの中でのちょっとした困りごとを住民同士がお互いさまで気持ちよく支えあう、住民による有償の日常的な生活支援を行っています。

ごみの分別が分りにくい、物が壊れてしまっている、布団が重たくて一人では干せない

Table with 2 columns: 実施市町, 名称. Lists participating municipalities and their service names.



※詳しくは各社会福祉協議会にお問い合わせください。

問い合わせ先 市町社会福祉協議会(P27~P29参照)

ご挨拶の方(診療有償後手帳をお持ちの方)ががん等になった方へ

被爆者の方ががん等になった場合、その原因が原子爆弾の被害作用によるものであり、現に治療を要する状態にあるという厚生労働大臣の認定(病状や治療方針)が放射線以外の被害作用によるものである場合には、その方の治療費用が医療費の影響を受けているというところ(認定)を受けることにより、医療費が全額国庫負担になります。

Table with 2 columns: 医療特別手当, 特別手当. Shows benefit amounts for cancer patients.

がんが原因で障害者になった方へ

厚生労働省所管(勤労者任職員、勤労者、戦後処理等の障害者)で、医師診断の交付を受けた方は、指定医療機関で医療手帳を提出することにより、がんが原因で障害者になった医療費について、医療保険等の自己負担分を負担しないでその医療費を受けることができます。

Table with 2 columns: 特別手当, 問い合わせ先. Shows benefit amounts and contact info.

※国家公務員共済組合連合会所属のがんが原因の方、同業種同様の制度がありますので、ご確認ください。

支え合いの場

支え合いの場があります

市内には次のようながん患者団体(患者支援団体)や、患者サロンがあります。自分に合った支え合いの場を利用してください。

◆市内のがん患者団体・患者支援団体(広島がんネット掲載団体)(H23.3.30現在)

Table with 5 columns: 団体名, 所在地, 連絡先, 主な活動内容・特徴. Lists various cancer support groups and their details.

※各団体の詳しい活動内容、加入方法等については、直接各団体にお問い合わせください。

支え合いの場

◆サロン(がん診療連携拠点病院が開設するサロン)(H23.3.30現在)

Table with 4 columns: 区分, 病院名, 名称, 連絡先. Lists cancer salons at various hospitals.

※広島市立安佐市民病院は平成23年度開設予定。

支え合いの場

がん診療連携拠点病院が開設しているサロンは、がん患者さんや家族などが同じ立場での悩みや体験を語り合うことができます。

参加された方の中には、不安や悩みを解消していただくために、心療内科や看護師、医師、薬剤師などとの相談や治療について、専門家と話し合う機会があります。

参加された方の中には、不安や悩みを解消していただくために、心療内科や看護師、医師、薬剤師などとの相談や治療について、専門家と話し合う機会があります。

◆患者団体等が開設するサロン(H23.3.30現在)

Table with 5 columns: 団体名, 所在地, 名称, 開設日時, 連絡先. Lists salons organized by patient groups.

## 活用について

- 広島県内のがん診療連携拠点病院等で、  
無料配布
- 「広島がんネット」への掲載



## 今後の課題

### 評価・検証について

⇒ 実際の利用者の方々の御意見を元に、評価・検証し、より良いものにしていく必要があるのではないか

### 継続した情報提供のあり方について

⇒ 情報は日々変わっていくが、県としてどこまで・どういった形で対応することができるのか

## がん対策日本一の実現をめざして

県内のさまざまな方々との協働により、がん対策日本一をめざし、県民のみなさまの安心な暮らしを実現



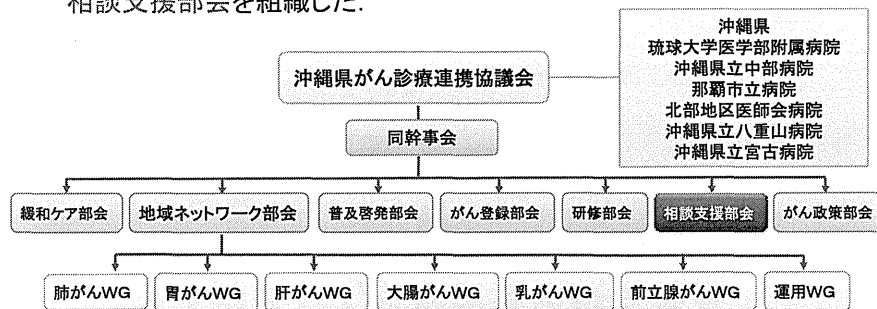
御清聴ありがとうございました

# 地域で作る沖縄県版「地域の療養情報」 『おきなわ がんサポート ハンドブック』 (ちむぐぐる おきなわ)

琉球大学医学部附属病院がんセンター  
沖縄県がん診療連携協議会  
増田 昌人

## 【背景 1】

- 沖縄県では都道府県がん診療連携拠点病院として琉球大学医学部附属病院(以下琉球大学病院)、地域がん診療連携拠点病院として沖縄県立中部病院・那覇市立病院、そして沖縄県独自のがん診療連携支援病院として北部地区医師会病院・沖縄県立八重山病院・沖縄県立宮古病院が指定されている。
- 2007年9月に沖縄県がん診療連携協議会を設置し、専門部会として相談支援部会を組織した。



## 患者必携

- 「がん対策推進基本計画(2007年6月策定)」にて、その作成等が定められたのがきっかけで作成された。
- がん患者さんにとって必要ながんに関する情報を取りまとめた冊子で、がんと診断されたすべての方に、患者必携に含まれる情報を届けることで、患者さんがより良い療養生活を送ることを目指している。
- 以下の三部作である

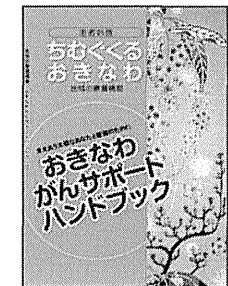
自分らしい向き合い方を考えていくために読む『がんになったら手にとるガイド』(1,260円)(A5判サイズ)



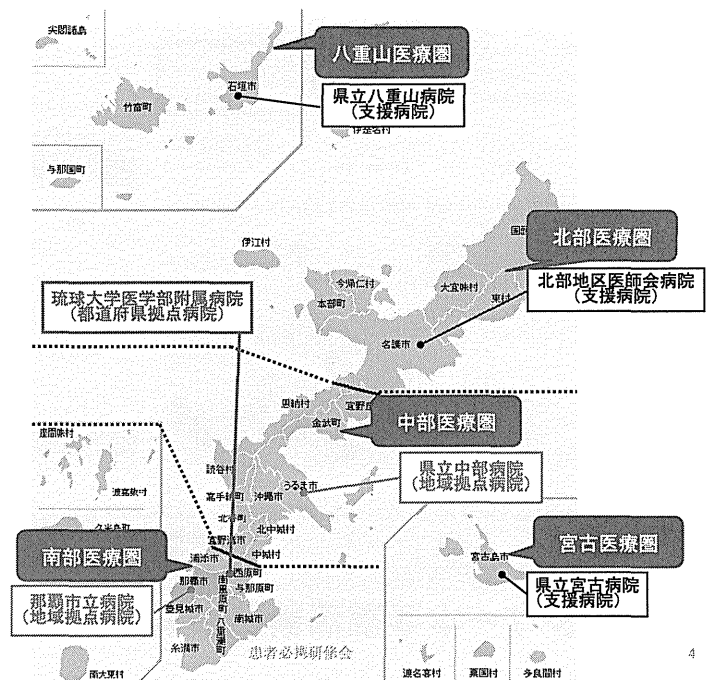
聞いたり調べたりして理解したことを書きとめて整理する『私の療養手帳』(ガイドに附属)(A5判サイズ)



相談窓口などの情報をとりまとめた『地域の療養情報』(無料)(A5判サイズ)



## 沖縄県のがん診療連携拠点病院 および支援病院



## 沖縄県がん診療連携協議会委員

県拠点病院 (9名)	地域拠点病院・ 支援病院(12名)	沖縄県および 各種団体(6名)	患者委員および 有識者委員(6名)
病院長・副病院長	地域拠点病院長	県政策参与 (副知事相当)	患者関係委員3名
看護部長	同副院長・部長 から2名	県福祉保健部長	(1)患者
薬剤部長	支援病院長	医師会長	(2)患者家族
医療福祉支援 センター長	同副院長・部長 から1名	歯科医師会長	(3)患者遺族
病理部長		薬剤師会長	有識者 若干名
歯科口腔外科科長		看護協会長	(1)天野委員
事務部長			(2)埴岡委員
がんセンター長			(3)山城委員

2011/11/11

患者必携研究会

5

## 沖縄県がん診療連携協議会ホームページ



2011/11/11

患者必携研究会

6

## 【背景 2】

- 厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」班が、「地域の療養情報」の企画・製作・臨床試験を行った
- 治療や療養生活に役立つ身近な相談窓口などの情報をつとまとめた冊子である。
- 研究班として茨城、栃木、静岡、愛媛県版を先行して試作し、次に高知と沖縄県版を試作した。



2011/11/11

患者必携研究会

7

## 試作版作成スタッフ

- 1 沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会
- 2 琉球大学医学部附属病院がんセンター

### \* 情報提供及び協力

- 1 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部
- 2 エルゼビア・ジャパン株式会社
- 3 沖縄県がん診療連携協議会及び他の6つの専門部会
- 4 沖縄がん患者ゆんたく会(患者会)
- 5 沖縄県福祉保健部

2011/11/11

患者必携研究会

8

## 相談支援部会委員(試作版作成時)

	所属	備考
1	沖縄がん患者会連合会会長	患者
2	(株)プロダクツ・プランニング社長	患者の遺族
3	NPO法人マインドケアおきなわ理事	臨床心理士
4	沖縄県中部福祉保健所健康推進班長	沖縄県(医師)
5	沖縄県福祉保健部医務課主任	沖縄県(事務官)
6	北部地区医師会病院MSW	地域拠点病院
7	沖縄県立中部病院MSW	地域拠点病院
8	那覇市立病院MSW	地域拠点病院
9	琉球大学病院相談支援センターMSW	県拠点病院
10	琉球大学病院がんセンターMSW	県拠点病院
11	琉球大学病院がんセンター長	県拠点病院
12	(琉球大学病院がんセンター事務)	県拠点病院(陪席)

2011/11/11

患者必携研修会

9

## 試作版作成経過

09年6月	沖縄県がん診療連携協議会委員から渡邊先生を紹介され、「患者必携」事業を知る⇒渡邊先生、琉球大学病院がんセンターご訪問
7月	相談支援部会にて、増田委員が「患者必携」事業を説明 『地域の療養情報(沖縄県版)』作成を部会事業に加えることが承認
7月	先行している県の「地域の療養情報」を基に内容について審議
7月	実際の作成に向けて始動⇒コンテンツ収集開始、沖縄県にも協力依頼
8月	沖縄県と各委員から収集した情報が提示され、コンテンツの整理を行う
9月	緩和ケア部会と普及啓発部会でも検討、新たなコンテンツを提案
10月	沖縄県版に追加する項目を最終的に決定
11月	たたき台が完成、内容の訂正・見直しを行う
12月	沖縄がん患者ゆんたく会(患者会)に内容の訂正・見直しを依頼
10年1月	『地域の療養情報(沖縄県版)』試作版完成
5月	渡邊班で発表

2011/11/11

患者必携研修会

10



2011/11/11

患者必携研修会

11

## 試作版に追加した内容

- 放射線治療実施施設
- セカンドオピニオン実施施設リスト
- 市役所・町村役場担当連絡先
- 沖縄県福祉保健所
- 全国健康保険(協会けんぽ)
- 社会保険事務所
- MSW配置病院
- 在宅療養診療所
- 沖縄県内の地域包括支援センター
- ファミリー・サポート・センター
- ファミリーハウス

## 「地域の療養情報」沖縄県版(第1版) 「おきなわ がんサポート ハンドブック」の作成

### 【目的】

- 「地域の療養情報」沖縄県版を作成・配布することによって、がん患者とその家族に、がんに関する身近な情報を提供する。
- 同時に『がんになったら手にとるガイド』と『私の療養手帳』を広報し、購入を奨励することにより、がんに関する総合的な情報提供を行う。

### 【方法】

- 沖縄県がん診療連携協議会・相談支援部会が、先行して試作された4県の「地域の療養情報」を詳細に分析し、沖縄県に必要なコンテンツを選定する。
- 沖縄県福祉保健部と琉球大学病院がんセンターと協力して、「地域の療養情報」沖縄県版を発行する。

2011/11/11

患者必携研修会

12

## 第1版作成スタッフ

- 1 沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会
- 2 沖縄県福祉保健部
- 3 琉球大学医学部附属病院がんセンター

### \* 情報提供及び協力

- 1 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部
- 2 エルゼビア・ジャパン株式会社
- 3 沖縄県がん診療連携協議会及び他の6つの専門部会
- 4 沖縄県がん患者会連合会
- 5 沖縄県立首里高校染織デザイン科
- 6 瑞泉同窓会(旧沖縄県立首里高等女学校・旧沖縄県立女子工芸学校同窓会)

\* 赤字は新規メンバー

2011/11/11

患者必携研発会

13

## 相談支援部会委員

	所属	備考
1	沖縄がん患者会連合会会長	患者
2	(株)プロダクツ・プランニング社長	患者の遺族
3	NPO法人マインドケアおきなわ理事	臨床心理士
4	沖縄県中部福祉保健所健康推進班長・医師	沖縄県
5	沖縄県福祉保健部医務課主査	沖縄県
6	中頭病院医療相談室・MSW	一般病院
7	ハートライフ病院地域医療連携室・MSW	一般病院
8	豊見城中央病院相談室主任	一般病院
9	国立沖縄病院地域医療連携室経営企画室長	一般病院
10	沖縄県立八重山病院地域連携室師長・看護師	支援病院
11	沖縄県立宮古病院地域連携室長・MSW	支援病院
12	沖縄県立中部病院病床管理師長・看護師	地域拠点病院
13	那覇市立病院MSW	地域拠点病院
14	琉球大学病院がんセンター・MSW	県拠点病院
15	琉球大学病院がんセンター長・医師	県拠点病院
16	(琉球大学病院がんセンター事務)	県拠点病院(陪席)

2011/11/11

患者必携研発会

\* 赤字は新規メンバー

14

## 第1版作成経過

- 10年2月 地域の療養情報(沖縄版)試作版完成
- 3月 試作版の評価を行う(相談支援部会, 患者会)
- 4月 平成22年度沖縄県福祉保健部予算「がん医療連携体制推進事業」484万円
- 5月 渡邊班にて地域の療養情報についての発表  
改訂版作成にあたって掲載情報の精査が行われる
- 6月 沖縄がん患者ゆんたく会(患者会)の幹部に、内容の訂正・見直しを依頼
- 7月 改訂版製作のための情報収集を行う(1回目)  
(情報提供: 相談支援部会, 沖縄県がん患者会連合会, 沖縄県)
- 10月 各担当者より収集した情報の見直し, 精査を行う(2回目)
- 11月 見直し3回目(追加: 沖縄県がん診療連携支援病院について掲載)
- 12月 表紙デザイン, 見出し, レイアウトについて検討する  
紅型作品を提供(沖縄県首里高等学校染色デザイン科3年生)  
患者会へ意見収集(沖縄県がん患者会連合会)  
内容・タイトル・方言について高齢者から情報収集(瑞泉同窓会)
- 11年1月 編集作業, 内容の最終確認
- 3月 第1版完成(2万部)
- 4月 関係施設に配布
- 5月 拠点病院にて患者や患者家族に配布開始

2011/11/11

患者必携研発会

15

## 第1版へ追加した情報

- |                              |                                   |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 沖縄県がん診療連携支援病院              | 11 福祉用購入費や住宅改修費の支給                |
| 2 高額療養費貸付制度                  | 12 訪問看護ステーション一覧                   |
| 3 高額療養費受領委任払い制度              | 13 介護タクシー                         |
| 4 標準負担額減額認定制度                | 14 沖縄国際民間救急サービス                   |
| 5 一部負担金の減免制度                 | 15 緩和ケアについて(説明、緩和ケア外来一覧、こころの緩和ケア) |
| 6 生活保護                       | 16 がんと告知されたときの家族へのアドバイス           |
| 7 障害年金(基礎年金・障害厚生年金・障害共済年金)   | 17 患者会について                        |
| 8 障害手当金(厚生年金)<br>障害一時金(共済年金) | 18 日本対がん協会の電話相談                   |
| 9 高額介護・高額介護予防サービス費           | 19 患者必携サポートセンター                   |
| 10 高額医療・高額介護合算制度             |                                   |

2011/11/11

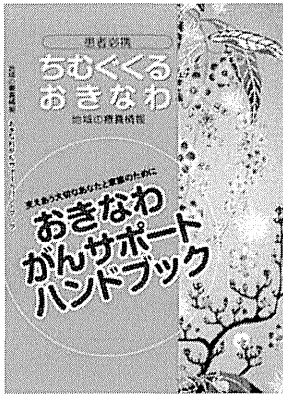
患者必携研発会

16



# 「地域の療養情報」沖縄県版(第1版) 「おきなわ がんサポート ハンドブック」

- ・ 沖縄県内の治療や療養生活に役立つ身近な相談窓口などの情報をとりまとめた冊子
- ・ 沖縄県がん診療連携協議会・琉球大学医学部附属病院がんセンター・沖縄県の三者が共同で2011年3月に2万部発行
- ・ 4月に各患者会,自治体,福祉保健所,医療施設等への配布が完了
- ・ 5月から拠点病院を中心に,がん患者さんとその家族に担当医等から無料配布を開始
- ・ 患者必携「地域の療養情報」の発行,無料配布は国内初



## 「ハンドブック」目次(2)

### 経済的負担と支援について

- 保険給付や公費医療制度で医療費負担を軽減する制度・38
  - ①高額療養費制度
  - ②高額療養費貸付制度
  - ③高額療養費受領委任払い制度
  - ④高額療養費限度額適用制度
  - ⑤標準負担額減額認定制度
  - ⑥一部負担金の減免制度
  - ⑦小児慢性特定疾患医療費助成制度
- 公的助成で医療費負担を軽減する制度・44
  - ⑧ひとり親家庭等医療費助成制度
  - ⑨重度心身障害者医療費等助成
  - ⑩生活保護
- 生活費などの支給を受ける制度・46
  - ⑪傷病手当金
- 医療費や生活資金などを借りる制度・48
  - ⑫生活福祉資金貸付制度
- 年金制度を活用する制度・49
  - ⑬障害年金(障害基礎年金・障害厚生年金・障害共済年金)
  - ⑭障害手当金(厚生年金)・障害一時金(共済年金)
- 介護保険制度と合わせて経済的負担を減らす制度・50
  - ⑮高額介護・高額介護予防サービス費
  - ⑯高額医療・高額介護合算制度
- その他の利用出来る制度・51
  - ⑰身体障害者手帳による助成や支援
  - ⑱確定申告による医療費控除
    - 沖縄県内の税務署一覧
  - ⑳福祉用具購入費や住居改修費の支給

### 療養生活を支えるサポートをうまく利用しましょう

- 訪問診療について・54
  - 在宅療養支援診療所
    - 在宅療養支援診療所一覧
  - 訪問看護について・58
    - 訪問看護ステーション一覧
  - 介護保険サービスについて・61
    - 介護サービスについて
    - 日常生活・在宅療養を支える機器の貸し出しについての相談・63
    - 高齢者に関する相談窓口について・63
- 地域包括支援センター・64
- 介護タクシー・67
- 沖縄国際民間救急サービス・68
- ファミリーサポート・センター・69
- ファミリー・ハウス・71
- 国立がん研究センター患者必携サポートセンター
  - 患者必携サポートセンターとは・72
  - 問い合わせ先一覧
    - 役所・役場一覧・73
    - 沖縄県内社会福祉協議会一覧・75
    - 沖縄県内の福祉保健所一覧・78
    - 沖縄県年金事務所一覧・79

## 「ハンドブック」目次(1)

### はじめに

- 沖縄県がん診療連携協議会
  - 沖縄県がん診療連携協議会とは・6
- 沖縄県のがん診療連携拠点病院
  - がん診療連携拠点病院とは・9
    - 沖縄県におけるがん診療拠点病院
    - 沖縄県内のがん診療連携拠点病院及び支援病院つらさを和らげてあなたらしく過ごすために
- 緩和ケアについて・12
  - 緩和ケアとは・12
  - 緩和ケアを受けるには・12
  - 心の緩和ケアについて・14
  - がんと告知されたときの家族へのアドバイス・15
  - 緩和ケア病棟(ホスピス)・16
  - がんの終末期医療を担う医療機関・17
  - 在宅緩和ケア(がん終末期患者の在宅療養)についての相談・17
- 患者会・18
  - 沖縄県内の患者会及びサポート団体リスト
    1. 沖縄県のがん患者会連合会
    2. 沖縄県がん患者連合会に加盟している患者会
    3. その他の患者会
    4. がんサポート団体とその他の団体
    5. がん患者サロン

### 診断や治療法を理解し納得して選ぶために

- セカンドオピニオンについて・27
  - セカンドオピニオンの受診方法・27
  - セカンドオピニオンの費用・27
    - セカンドオピニオン実施施設
- がんの専門的治療施設について・29
  - 放射線治療について
  - 放射線治療実施施設
- 相談支援センターにご相談ください
  - 相談支援センターとは・31
    - 沖縄県相談支援センターの連絡先
  - 相談支援センター以外の相談機関・33
    - 日本対がん協会(ホスピス)の電話相談
    - がん相談ホットライン
    - 専門医にうながるがん無料「面接」「電話」相談
- 療養生活の相談について
  - 医療ソーシャルワーカーとは・34
    - 医療ソーシャルワーカー協会会員設置医療機関一覧

## 「ハンドブック」内容抜粋

◆相談支援センターについて

がんの悩みを解決する相談支援センターについて詳しく説明しています。

がん相談支援センターとは、がん患者さんやご家族の悩みを解決するために、がん医療に関する情報を提供し、相談や支援を行う施設です。

相談支援センターでは、がんに関する様々な悩みを解決するために、専門のスタッフが対応しています。

相談支援センターの役割は、がんに関する情報を提供し、相談や支援を行うことです。

相談支援センターでは、がんに関する様々な悩みを解決するために、専門のスタッフが対応しています。

◆相談支援センターにご相談ください

がんの悩みを解決するために相談したいですか？

がん相談支援センターとは、がん患者さんやご家族の悩みを解決するために、がん医療に関する情報を提供し、相談や支援を行う施設です。

相談支援センターでは、がんに関する様々な悩みを解決するために、専門のスタッフが対応しています。

相談支援センターの役割は、がんに関する情報を提供し、相談や支援を行うことです。

相談支援センターでは、がんに関する様々な悩みを解決するために、専門のスタッフが対応しています。

◆相談支援センター

がん相談支援センターとは、がん患者さんやご家族の悩みを解決するために、がん医療に関する情報を提供し、相談や支援を行う施設です。

相談支援センターでは、がんに関する様々な悩みを解決するために、専門のスタッフが対応しています。

相談支援センターの役割は、がんに関する情報を提供し、相談や支援を行うことです。

相談支援センターでは、がんに関する様々な悩みを解決するために、専門のスタッフが対応しています。

## 「ハンドブック」の常備先

3,000冊	琉球大学病院	県拠点病院
1,500冊	那覇市立病院 県立中部病院	地域拠点病院
500冊	北部地区医師会病院 県立宮古病院 県立八重山病院	支援病院
250冊	専門的がん診療機関 (18施設)	県保健医療計画 での選定施設
50冊	標準的がん診療機関 (83施設) 福祉保健所(6施設)	県保健医療計画 での選定施設
5冊	市町村(41自治体)	
1冊	診療所等(390) 薬局(145) 老健施設(44) 地域包括支援センター(41) 患者会(23) ファミリーサポートセンター(14) 県及び地区医師会(8) 年金事務所(6) 歯科医師会・看護協会	

\* 残り2,600冊余は沖縄県庁保管

## 「ハンドブック」の配布場所

### <がん患者さんとそのご家族>

- 1 通院先の医療機関  
がん診療連携拠点病院  
・琉大病院
- 2 ・那覇市立病院  
・県立中部病院  
の相談支援センター
- 3 琉大病院がんセンター

### <一般の方>

- 1 沖縄県福祉保健部
- 2 福祉保健所  
がん診療連携拠点病院  
・琉大病院
- 3 ・那覇市立病院  
・県立中部病院  
の相談支援センター
- 4 琉大病院がんセンター

2011/11/11

患者必携研協会

21



## 「ハンドブック」の琉球大学病院での配布方法

**琉大病院からのお知らせ**



がんの診断を受けて間もない患者さんやそのご家族の役に役立つ、大切な  
ごとの助けとなる書籍「がんになつたあの手にあるガイド」と「おきなの  
手帳」が作成されました。これらを活用することで、以前よりも「健康でき、  
わかりやすく、役に立つ情報」を得ることが出来ます。また、これらは一般書  
店にてセットで1,200円で販売されています(店内の売場でも購入することが  
出来ます)。

詳細については、随時発行している「患者さんのしおり」をご覧ください。  
なお、沖縄県は全国に先がけて出版の書籍「おきなのがんサポートハン  
ドブック」を身構えましたので、合わせてご利用ください。

発行された冊子についての資料は、下記の連絡先へお問い合わせください。

 患者さんのしおり 患者必携研協会 〒901-8545 那覇市美里1-1-1 TEL: 098-863-1111 FAX: 098-863-1112	 おきなの手帳 琉大病院がんセンター 〒901-8545 那覇市美里1-1-1 TEL: 098-863-1111 FAX: 098-863-1112
--	---

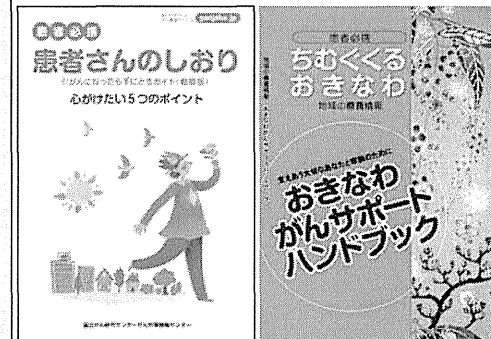
※「しおり」についてはおきなの手帳と同様、患者必携研協会にて発行されています。

 おきなの手帳 琉大病院がんセンター 〒901-8545 那覇市美里1-1-1 TEL: 098-863-1111 FAX: 098-863-1112	 おきなの手帳 琉大病院がんセンター 〒901-8545 那覇市美里1-1-1 TEL: 098-863-1111 FAX: 098-863-1112
---	---

2011/11/11

患者必携研協会

1. 外来・病棟で、担当医が、がん患者または家  
族に、下記の2冊が入った封筒を手渡す
2. 問合せ先:「しおり」は国がん  
ハンドブックは琉大病院がんセンター  
相談は琉大相談支援センター
3. 5月16日から配布開始した



22

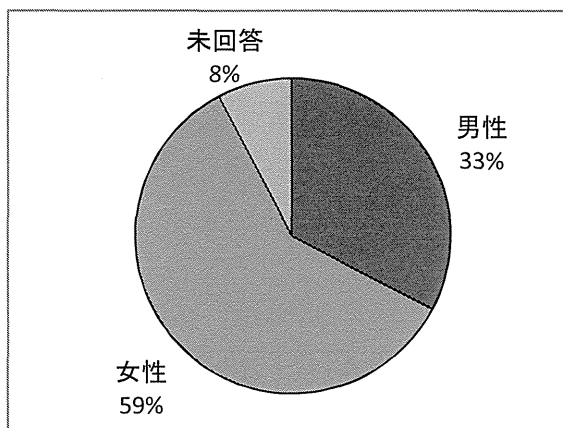
**がん臨床研究推進事業 研修会**  
**患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて**  
**地域における情報発信とがん患者支援 アンケートまとめ**

主 催;厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)  
 地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究班  
 共 催;公益財団法人 日本対がん協会  
 開催日;2011年11月11日(金)13時00分~16時30分  
 場 所;TKP銀座ビジネスセンター カンファレンス8A会議室  
 〒104-0061 中央区銀座6-17-2 ビルネット館2号館  
 総参加人数;78人(スタッフ含む)  
 受講者;54人中 アンケート回収枚数;52枚

1) 性別

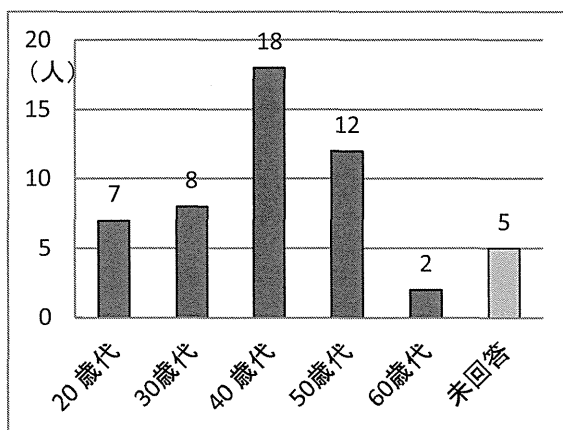
回答	男性	女性	未回答
人数(人)	17	31	4

(以下、記載ない場合はn=52として集計)



2) 年齢

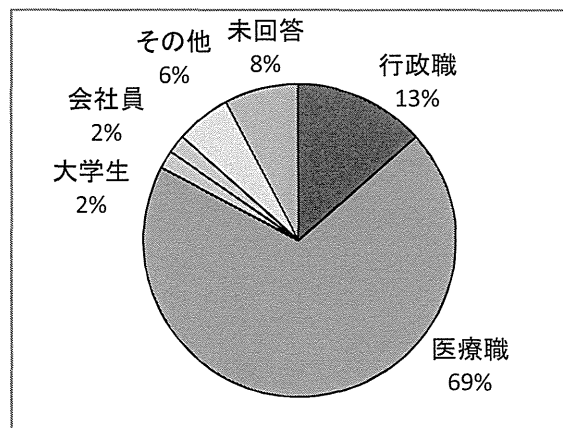
回答	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	未回答
人数(人)	7	8	18	12	2	5



3) 職種

回答	行政職	医療職	大学生	会社員	その他	未回答
人数(人)	7	36	1	1	3	4

(その他の内訳)事務職員  
 会社役員  
 患者

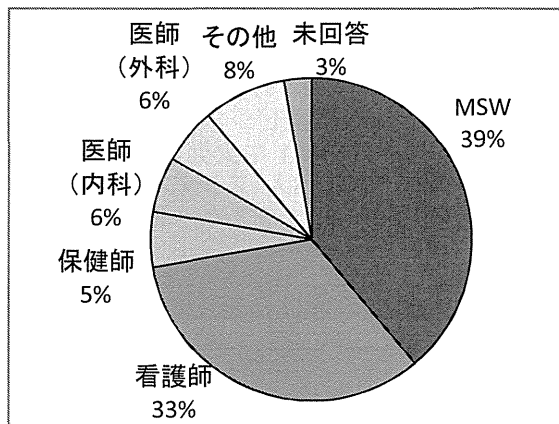


4) 医療職専門分野

回答	MSW	看護師	保健師	医師 (内科)	医師 (外科)	その他	未回答
人数(人)	14	12	2	2	2	3	1

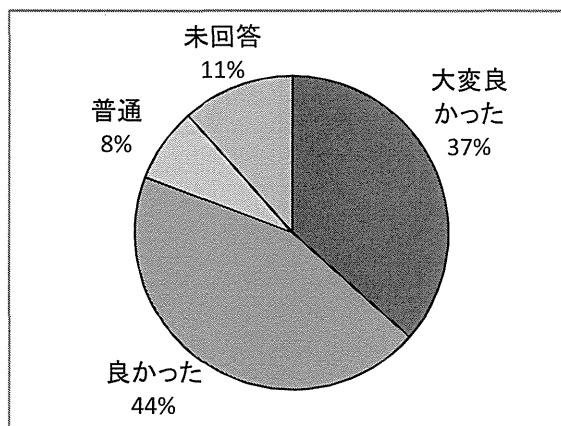
(前問より n=36)

(その他の内訳)記載欄なし



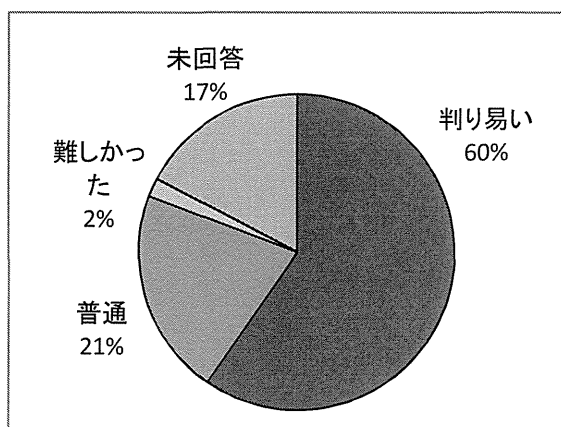
5) 全体的な印象

回答	大変良かった	良かった	普通	良くなかった	未回答
人数(人)	19	23	4	0	6



6) 内容の理解

回答	判り易い	普通	難しかった	未回答
人数(人)	31	11	1	9



7) 開催情報入手経路

回答	ポスター	ちらし	広報	インターネット	メール	人から	その他	未回答
人数(人)	3	22	2	4	8	7	4	5

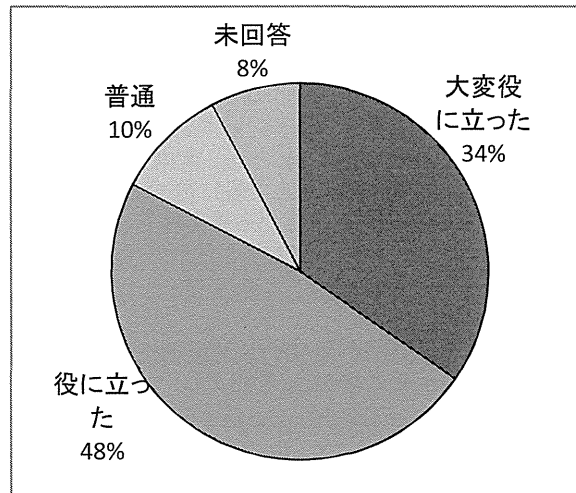
(複数回答)

(人から聞いたの内訳) 上司  
 県 ×2  
 公衆衛生学会  
 NCC職員

(その他の内訳) 上司  
 研修会 ×2  
 院内広報  
 NCC職員

8) 内容の評価

回答	大変役に立った	役に立った	普通	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった	未回答
人数(人)	18	25	5	0	0	4



9) 内容について [38;意見数]

<p><b>各地域ごとの取組みについて[21]</b></p> <p>各地の積極的な取組みを知り、おどろきました。 他の都道府県の取組みについて知ることができました。県によって工夫しており、また発展している地域は行政の協力も大きいと感じました。 地方自治体によって、療養情報の取組みについて、ずいぶん進んでいる地域とこれからのところがあるのだと思いました。普段は会えない方とも会えて、他県での取組みも聞けたので方向性が見えた気がします。 地域によって行政が主体となりうまく協働できているところ、協議会が主体となり実務者レベルで作成したところ、特色があり、大変勉強になりました。 実際に、療養情報をつかった方々の生の声をきくことができ、大変役に立ち勉強になりました。 先駆的な地域のお話を伺うことができ、当県でも参考にさせていただきたいことがたくさんあり、参加して良かったです。県行政、患者会との協働をすすめていく必要を強く感じました。 本日、研修会に参加させて頂き、がん患者さんに対しての対策が国ごと県ごとにどのように取組まれているのかを、改めて学ぶことができた。そして、今後、このような資源情報ツールをどのように患者様に活用していただけるか。そのための体制を地域からどのように使っていくのかを、今後の課題として取り組んでいきたい。 県の患者必携は必要ではあるが、内容をどうするか決めるのはとても難しいと感じた。患者サロンの事務員である私にできることはあまりないのではと思った。 全国での取組みについて知ることができて良かったと思います。是非各地域での情報を患者さんや必要としている人に届くツールとして療養情報を発信してほしいと思いました。 各県によって作る人が違うので、それぞれの特性にあわせた作り方をしているのだと理解した。にぎやかでWSに集中できないし、WSの目的がいまいちわからない。同じ地域にしないほうがよかったのでは？ 地域の療養情報についての最近の動向がわかったのでよかった。 当県はこれから作成の段階ですが、やはり実際苦労されて作成された県の情報は有用であった。 各地域(都道府県)の進捗状況をもっときければよかった。 各都道府県単位で作成する気風になっている事は望ましいことです。先行県での更新も考えられている様子で、一方色々な問題点もある様子です。今後更新を見据えると共に、作成に着手した方がよいと思うため、先行県の更新について焦点をあてるのもいいと思う。 他県での取組みがわかりよかった。室内、県内の相談担当者に情報提供していきたい。県内相談支援センターごとの課題と対策を検討する上で役に立つと思う。ワークショップでは、患者家族の方の意見が聞けなかった。行政の人達、他県の相談者の意見も参考になった。 他の地域の取組みについて知ることができた。 先行事例の取組み内容は、大変役立った。ワークショップは参加目的にバラつきがあったためかテーマを絞ることが難しかった。 ワークショップは、時間が足りなかった。地域の療養情報を作成していくにあたり項目だての参考になった。 実際の取組みを知る事が出来ました。 各県の取組みの過程を知ることができて参考になりました。GWで様々な立場の方と意見交換できたのもとてもよかったと思います。</p>
<p><b>情報の内容と評価について[2]</b></p> <p>実際に作成された方のお話を伺えたので非常に参考になりました。情報の選択は難しいと思います。「作成すること」にばかり注意が行っていましたが、評価も重要とわかり勉強になりました。</p>
<p><b>情報発信の方法について[4]</b></p> <p>情報発信の方法について以前から気になっていたことが議論できよかった。 相談支援センターのMSWとして病院へ来院する患者さんや家族さんへの情報発信の方法が分かったので良かった。 ”患者さんへ情報提供をするということ”について考えるよい機会となった。 病院勤務だが、そもそもがん相談支援センターの周知が不十分な現状を痛感した。患者会側からのコメントとして病院にポスター掲示などを頼んでもなかなか協力得られない現状を聞き、病院がサポートしやすい体制、意識を持つことが必要と思った。</p>
<p><b>患者会との連携[1]</b></p> <p>患者会との連携が重要であることを再認識した。</p>
<p><b>職種間の協議について[2]</b></p> <p>自分と同じように現状のがん医療を変えたいと思っている他職種の方々に出会えて有意義でした。 各々の立場の方々と顔を合わせて意見交換ができた。普段、なかなかできないことなので貴重な時間でした。</p>
<p><b>感想[8]</b></p> <p>大変参考になりました。ありがとうございました。 今後、作成するうえで大変参考になった。 まず、参加して良かった。「患者必携」に対する見方が変わった。 再発したときにどうすればよいか。10年前とはかなりちがった感じを得られた。 ワークショップがあって、ディスカッションができ、楽しかった。 今年度中に作成しなければならぬのでタイミングが良かった(遅かった) せっかく様々な立場の人が集まったが、ワークショップにおいて、時間が足りず十分意見を聞くことができなかった。 内容が多すぎて時間的に不足な部分が多い感じがある。</p>

10) 新しく知った点や興味深く感じた点 [34]

地域情報の重要性[6]
①地域に合わせた患者必携が必要であるという考え方②広島患者必携が患者さんの意見を聞いて作られていた点 地域地域でも各々問題点を進みぐあいが違っても情報に対しては、共通に対応出来ることがあるので、可能性を感じた。 地域によるニーズの差を対策にいかす。 地域によって強化ポイントが異なる点が興味深かった。 県内でも地域により状況が異なるので、詳細な情報は冊子によらず、各相談支援センターで把握していく、ネットワークを構築していくこと。 地域によって、必要な情報が若干違うということ。でも、大わくは同じと思う。必要な項目が何か、必要がわかった。患者さんは自宅に近い病院を選択することが多い。住所だけでもよい。情報の窓口のあるチラシ等を色々なところに何回も配布するのもよい(市民に周知する上で)。
栃木県の例について[1]
栃木県での県保健福祉センターでがん相談支援を行っていることは、地域統括相談支援センターに準じる取扱いができるのではないかと感じた。
広島県の例について[6]
広島の、前方、後方支援HPのリスト、一定基準とのことであったが、具体的には質の担保について気になった。 広島や沖縄県といった実際作成された県からの話を聞くことができ参考になった。 広島県、沖縄県の取り組み参考になった。 先進県の作成過程。地域連携の取り組み 患者必携の評価について、たくさん載せるだけではなく取捨選択も必要であるとき。 患者さん家族が求めている情報→近所からの口コミ、同室者からの情報だった。医療者が必要と思っている情報と実際には大きな違いがあるのでは。
沖縄県の例について[5]
沖縄県のように全ての患者さんへの配布などの方法も在る事を知りました。又、患者さんの声を生かす事がとても重要であると感じました。 沖縄での冊子配布時にアンケートと一緒に配るアイデアはとても参考になりました。 沖縄県でのとりみでは、MSWが中心となっており同じMSWとして刺激を受けました。 地域の療養情報を配布する際にアンケートを配っている沖縄県の取り組みは非常に参考になった。 患者会を一定の基準を設けて掲載されていた点。冊子にアンケートをつけ配布されていた点。
情報全般について[5]
情報を集約した後の評価、その後の更新、継続をいかにしていくかについて深く興味を持ちました。 情報をつなぐ事 患者さん、患者会の声がおもっていた以上に各県のガイドに盛り込まれている。でも、まだ足りない。十分でないというフロアからの意見が興味深かった。 作成する上での注意点、情報のしぼり方、評価の必要性、更新を前提に作成。 患者の意見を直接反映できるような療養情報を作成する意識が必要と思った。
行政の関わりについて[2]
他県の状況が分かったので良かった。自県の動きがあまり活発ではないので、県の担当の方も参加してほしい。行政が多職種性の連携をつくるという考え、ただ研修会などの箱を作るだけでは不十分とも思え、今後モデルを提示していく必要もある。
キーパーソン存在[3]
第1部で、先駆的な県のお話を伺いましたが、各県とも、行動力のあるキーパーソンがいて、関係機関をまきこんで進めていっていることが分かり、やはりキーパーソン、中心になってすすめていく人、機関がいる(ある)ことが重要だと感じました。 地域での取り組みの情報が知れてよかった。地域によって、リーダーシップを発揮している職種が異なっていたのもおもしろかった。 先進県は医療者のリーダーシップが大きい。
予算関係について[2]
冊子発行の予算も県により様々で、国庫からの補助はどのようになる方向なのか？ 予算
職種関係について[2]
多業種の視点が興味深く感じました。また、地域性もあり、その視点も持ちながら考えていくことが重要と改めて思いました。 具体的な働きかけの方法を知ったこと(薬業連携)
その他[2]
回覧板の効果について 所属の病院でやっている事は、最先端の事をやっているなと思った。

11) もっと詳しく知りたかった点や深く議論したかった点 [27]

<p>地域ごとの冊子の作成について[8]</p> <p>地域の特性を生かしたツールをどう作成するか。          県ごとに議論をすることができ、とても良かったです。同じような悩みがあり、もっとお互いに連携できたらと感じました。          沖縄県さんの冊子の配布について、初診、フォロー中の患者さんに主治医が渡しているそうですが、全てのDr.が協力してくれているのでしょうか？          作成にあたり苦労した点、各機関との役割分担(医師会、患者会等)          作成した地域版をどのように活用しているか、アンケートのみでは判りにくい。活用状況の情報を詳しく知りたかった。          冊子作りのにせる内容の絞り込み。          費用のことを他県の皆さんにお聞きしたかった。継続するためにはお金が必要と思うので。          地域連携のツールであるのか、患者さんのためのものであるのか</p>
<p>患者に必要な情報について[6]</p> <p>患者にとって本当に必要な情報とは何かや、利用者の意見をどう吸い上げていくかといった具体的な方策を知りたかった。          地域性につねに話題になるが、その地域にいる方の考え方、ニーズの集積であると痛感した。コアメンバーが変わることで同じ地域でも「地域性」がかわるのだろう。それぞれの地域で行われている連携の会を十分ご存じないのかも。          がんPtの悩みは、とても深い。日頃そのような相談をきいていて、今回、行政、病院の話を知っていると、やはりPtの視点に私達医療者の目がむいていない事がひしひしと感じる。だから、Ptは、「病気になると孤独だ」と思うのかなと感じた。          患者は本当に何を望んでいるのかを知ることについて。情報はあふれているのではないだろうか。          情報の質、患者、家族が必要とする情報をどう得て整理するか。          がん患者以外(以前?)の一般市民への情報提供も必要だと思います。</p>
<p>行政との関係について[4]</p> <p>行政が多職種性の連携をつくるという考え、ただ研修会などの箱を作るだけでは不十分とも思え、今後モデルを提示していく必要もある。          行政が積極的に関与する事が重要と感じました。冊子とinternet(HP)のあり方、位置づけについて。          行政との良好な連携のとり方          行政の話は予想できるというか目新しい内容ではなかったもので、内容を実際に作った医師の話をもっとくわしく知りたかった。</p>
<p>その他[9]</p> <p>患者必携の活用方法          病院から地域、在宅へつなぐためには。          就労者、特に社内に保健医療スタッフがない中小零細企業でどのような支援が必要か、議論し、またガイドに反映していただきたいと思います。          十分有意義でした。          相談支援センターの現状(がんセンターとは違い、市立病院レベルの相談支援センターではがんのことだけを行っていないところが多い)。他の部署と分けて独立させないと現実的には情報収集が難しいことと、相談件数が増えても対応しきれないと思う。          参加者の職種、立場がどんな人たちだったのかわからなかった。同じテーブル(班)の人はわかったが、それ以外の班の人たちはわからなかったので知りたかった。          グループワークの時間があれば、各メンバーの抱える課題が聞けたように思う。          ワークショップの時間が多くあれば良かった。          特になし</p>



12) コラボレーション可能な点 [20]

病院間連携について[4]
近隣病院との他職種との方との情報交換会(地区単位) 既存の、地域の連携パス等の集まりや会議等を活用するのもひとつかと。 拠点病院の連携の強化に役立つ? 患者会については、どこまで組織として認めていけるか判断は難しいか。 がん診療に関わる医師が強制的に参加しなければいけないようにしたほうがよいと思う。外科系Dr.などはセカンドオピニオンさえきらくこともあり、連携などに全く興味や知識がないことが多い。
広報や教育について[4]
常にいろんなメディアで相談センターへのアクセスを知らせ続けるようにしてほしい。 市民フォーラムの開催、意見交換(ワークショップ) 医療者への「患者必携」の説明会は情報発信の必要性を認識してもらうのに有効。 まず、院内の教育が先決。それから地域。同職種→他職種へと拡大。
行政の取り組みについて[4]
行政の姿勢の格差を感じる 医療県毎に状況が違うというのを、グループディスカッションを通して感じました。又、職種によっても直面している問題を、どうみているかという視点の違いがある事を改めて実感しました。その方向を整えるようなものがあつたら良いなと思いました。 3. と同じ。病院の支援センターのスタッフには患者さんであり、就労者でもあるという視点を持って支援していただきたい。また、産業保健スタッフに求めること。(会社にDr.やNSがいるならここまでお願いね)を共有したいです。 健診を活用して、市町村だけでなく、社協、保健センターも連携が可能と思われる。
情報の質や評価について[3]
情報の吟味はどう行うのか? 情報発信後の取り組み⇒倫理的配慮の考え方。療養情報って何を示す? そしてあつかいの上で何を目的にするのか、役立つから情報とするのか、基本的な情報をとりあつかうかこの意義を考えてもいいのでは? 評価の際、各団体が意見を取りまとめてもらう。作成の際、医師会、薬剤師会、患者会等が持っている情報を持ちよる。 Pt、家族、地域の医師、大病院など多くの施設の代表が出てきて話しあつて作っていかないと、Pt、家族の視点のかけた情報提供になる気がする。
複数地域の情報が必要という意見[2]
他府県のものが実は必要。滋賀県の方は京都の病院に行くこともあるので。 地域を2つもっている人(職域、住域)には、2つの地域の情報が必要でしょう。隣接都道府県の連携が有効。
ITの活用について[2]
ITの応用が重要になっていく。NTT、KDDI、ソフトバンクなどとの協力が重要となっていく。彼らにとってはビジネスチャンス。 医療機関(診療所)や介護機関の方々へ情報を提供する手段としてITを簡単に利用する仕組みが必要
その他[1]
作成には、やはり七位一体の取り組みが必要。

13) ご意見・ご要望 [13]

内容に対する意見[3]
熊本県では、がん診療連携パスを県共通で作成しています。ネットワークの素地はあり、今後地域のニーズに合った療養情報の作成に向けて県と各拠点HP、地域の医療機関など、皆んなで協働していければと思います。 今後とも情報発信をお願いします。 各都道府県の取り組みや現状を知ることが出来、新たな知恵を得ることが出来ました。dataupしたとしても評価や効果測定の難しさを感じることできた。 相談支援センターMSWからや患者会からの方からも発表があると良い。このような会を是非次回も開催していただくと信じています。
グループワークに対する意見[4]
もう少しテーマをしぼってほしい。どうも忙しく流れて終わったという印象。 もう少し時間があつた方が、ワークショップでもまとめられやすかつたのではないかと思う(例えば2時くらい) グループワークの時間がもっとあれば良かつた 県単位でのグループワークだったので、親しみやすかつた。
施設に対する要望[1]
相談窓口だけでも常に知らせ続けるという態度をとってほしい。
主催者に対する要望、意見、お礼[5]
このような研修会をもっと早く、間隔を近く行ってほしかつた。地方では、情報が届いていない為、知らない方々が多く、残念に思います。 とても参考になりました。ありがとうございました。 また機会ありましたら、参加したいと思いました。 無料で受けられる研修として、とても有意義なものであつたと思います。先生方、スタッフの方々、ありがとうございました。 ありがとうございました。

# がん臨床研究推進事業 研修会

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 2012  
地域における情報発信とがん患者支援

## 開催報告書と資料集

2013年3月発行

2012年11月21日開催

国立がん研究センター国際研究交流会館 国際会議場  
主催：厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）  
地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する  
介入モデルの作成に関する研究班  
共催：公益財団法人 日本対がん協会

## 患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 2012

### 地域における情報発信とがん患者支援 報告書について

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 2012 地域における情報発信とがん患者支援 報告書（以下、本報告書）は、2012年11月に国立がん研究センター国際研究交流会館 国際会議場で開催されたがん臨床研究推進事業の開催概要とアンケート結果をまとめたものです。厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究班（以下、当研究班）が、全国の地域における療養支援に関する情報発信とがん患者支援のモデルを紹介し、地域や立場を超えた議論がなされました。

この研修会は、各都道府県主管課の行政担当者、がん診療連携拠点病院などのがん診療を行う医療機関の医療従事者、研究者、情報提供・相談支援関係者を対象として開催いたしました。2011年度に続く第2弾として実施するもので、昨年度からの参加に加え、今回初めて参加される県や参加がかなわない県の方から資料の取り寄せの依頼があるなど、関心の高さを伺わせるものでした。患者支援団体からのお申し込みや、国指定の拠点病院以外からの参加に加え、昨年研修会に震災の影響で参加できなかった東北地域の参加者が行政、医療者とも多く、全地域ブロックで最多であったことも特筆すべきことでした。

当研究班では、地域における情報発信とがん患者支援に資するモデルとして、「患者必携 地域の療養情報 都道府県版」の作成と普及、活用支援を実施することで、患者さんとご家族向けに望まれる地域社会のがん患者支援体制を構想・整備すべく、情報の収集整備を実施しています。患者が家族とともに、住み慣れた地域社会で、意思決定に基づいた療養生活を送るためには、地域の実情に応じた医療・療養に関する情報提供とともに、地域の社会的・文化的背景を考慮した支援が求められます。

研修会では、これまでの研究班の活動と成果に加え、今後の療養情報の普及における課題と方向性についての説明に続き、先行事例として、この前回の研修会やその後の当研究班の作成支援によって大きな進捗が得られた愛知県と京都府の事例と、作成支援から普及プロセスへの展開に関して栃木県、広島県、沖縄県における取り組みについて各

県の担当者および研究班の班員より報告がなされました。これらの県の行政担当者における活動状況や、推進協議会、情報提供・相談支援部会などでの検討プロセス、県内の医療施設や患者会などを取りまとめたキーパーソンの存在などに非常に関心が集まり、活発な質疑応答がなされました。制作や配布、今後の普及に向けた取り組みにおいては各県の特性に応じた創意工夫がなされていることも紹介されました。

ワークショップでは、参加申込みのあった地域ブロック単位に分かれて、「地域における情報発信とがん患者支援に向けて」をテーマに班員をファシリテーターとして課題の共有と今後の方向性について全員参加型のディスカッションを行っています。参加者の属する地域の状況や課題、よりよい情報発信に向けた工夫や提案など、行政、医療従事者、患者支援者などさまざまな立場から活発な議論がなされた。地域ごとの職種や医療機関の垣根を越えた連携にも有効であり、議論が途切れることなく継続し大変好評でした。巻末のアンケートには当日議論された主な論点や今後の継続的な取り組みのご提案など、医療や行政の現場の視点からさまざまなご意見をお寄せいただいております。

末筆ながら、本研修会のご支援をくださいました演者の皆さま、貴重なご意見ご提案をお寄せくださいました参加者の皆さま、ならびに公益財団法人日本対がん協会の関係の方々に深く感謝を申し上げます。

本報告書が地域のがん対策をより一層推進させることを願うとともに、がん患者さんとそのご家族、支援に関わる全ての皆さまにお役立ていただくことを心より祈念しております。

厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)

地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究

研究代表者 渡邊 清高

(独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供研究部)

#### 参考

国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス <http://ganjoho.jp/>  
都道府県 地域の療養情報 (試作版)  
[http://ganjoho.jp/public/qa\\_links/hikkei/hikkei03.html](http://ganjoho.jp/public/qa_links/hikkei/hikkei03.html)  
地域のがん情報  
[http://ganjoho.jp/professional/cancer\\_control/prefectures.html](http://ganjoho.jp/professional/cancer_control/prefectures.html)